兵庫港

〔日本書紀十（應神）〕三十一年八月、諸國一時貢上五百船、悉集於武庫水門、當是時、新羅調使共宿武庫、爰於新羅停忽失火、卽引之及于聚船、而多船見焚、

〔嘉永明治年間錄七〕安政五年二月廿五日、堀田正睦亞國事件各條ノ勅ニ答フ、

二月廿五日、傳奏衆、議奏衆、堀田備中守旅宿へ行向はれ、亞國一件勅書各條を以て御問合に付、堀田備中守答書、

一墨夷應接假條約の趣、無餘儀次第にて開港候共、舊冬十二月廿日被仰進候通、畿內及び皇居近國を相除候樣に被思召候間、攝津兵庫は除候樣に相成間敷哉の事、

答、右は應接筆記中にも粗認御座候通、反復辨論を盡し、可相成丈け取縮爲致談判候得共、諸外夷人共、素京、大坂、江戸の大都會深く見込、眼目に致し願立候儀にて、古來泉州堺、外國人渡來交易仕、京地南蠻寺に有之候趣は傳へ聞居、何分承引不仕候得共、種々手段を盡し、追々談判の上、京師十里四方の地へは、アメリカ人不立入筈に聢と取極候、其代り兵庫を開き、且山城國の方、南尼ケ崎領內猪名川を限り不立越候樣、漸承伏候儀に付、只今兵庫相除候樣申談方無御座候、

右の場合迄押付候儀は、容易の事に無之段は、深く御恕察被爲在度事に御座候、

一當時皇居寔以て御手薄の儀思召候間、可然大祿の大名堅固警衞出來候樣被遊度思召に候事、

答、右ハ兵庫開港に相成候得バ猶更の儀、當時關東には專ら取調にて、叡慮を安じ奉る御存意に御座候、猶御沙汰の趣も有之、別て厚評議仕、夫々取計可申心得に御座候事、

〔嘉永明治年間錄十四〕慶應元年十一月十四日、攝津兵庫開港ヲ止ム、

兵庫表御開港の處御廢止に付、兵庫奉行池野山城守、堺奉行へ轉役被仰付、その以下役々の者、夫夫轉役被仰付、

〔嘉永明治年間錄十六〕慶應三年六月、兵庫開港ニ付達、